

# 平成 28 年度事業報告

## I. 一般事項

### 1. 会員状況

平成 28 年度の会員異動状況は、次のとおりである。

会員種別		平成 27 年度末 会員数	入会数	退会数	増 減	平成 28 年度末 会員数
正会員		129	4	5	△1	128
賛助会員		13	0	0	0	13
特別会員	行政機関等	204	2	0	2	206
	学識経験者	52	1	0	1	53
	小計	256	3	0	3	259

### 2. 理事会

#### (1)理事会決議(平成 28 年 4 月 25 日)

平成 27 年度事業報告の承認に関する件、平成 27 年度決算の承認に関する件、幹事会員選任議案に関する件、役員を選任議案に関する件及び平成 28 年度通常総会に関する件につき、平成 28 年 4 月 21 日に会長から提案書を発出し、理事の全員から同意の、監事の全員から異議のない旨のそれぞれの意志表示が得られたので、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなした。

#### (2)第 1 回理事会(第 1 回通常理事会)(平成 28 年 5 月 16 日)

ロイヤルパークホテル(東京都中央区日本橋蛸殻町)において開催し、平成 28 年 3 月 2 日から同年 5 月 15 日までの代表理事及び業務執行理事の職務執行状況に関する報告を行った。

#### (3)第 2 回理事会(第 1 回臨時理事会)(平成 28 年 5 月 16 日)

ロイヤルパークホテル(東京都中央区日本橋蛸殻町)において開催し、会長、副会長等の選任に関する件について審議を行い、原案のとおり決議した。

#### (4)第 3 回理事会(第 2 回通常理事会)(平成 29 年 3 月 2 日)

協会会議室において開催し、平成 29 年度事業計画及び収支予算の承認に関する件について審議を行い、原案のとおり承認した。また、平成 28 年 5 月 16 日から平成 29 年 3 月 1 日までの代表理事及び業務執行理事の職務執行状況に関する報告を行った。

### 3. 総会

#### 通常総会(平成 28 年 5 月 16 日)

ロイヤルパークホテル(東京都中央区日本橋蛸殻町)において開催し、平成 27 年度決算の承認に関する件、幹事会員の選任に関する件及び役員選任に関する件について審議を行い、原案のとおり承認または決議した。

また、平成 27 年度事業報告並びに平成 28 年度事業計画及び収支予算に関する報告を行った。

### 4. 委員会活動

#### (1)企画運営会議

企画運営会議(議長:栗林 功 大成建設(株))を次のとおり 4 回開催した。

##### 1)第 1 回(平成 28 年 4 月 14 日)

理事会決議(4/25)、平成 28 年度第 1 回通常理事会(5/16)、第 1 回臨時理事会(5/16)の議案等について審議し、事業推進委員会による調査研究・技術開発の中期計画の改定等について報告を行った。

## 2) 第 2 回(平成 28 年 9 月 15 日)

事業推進委員会委員の承認について審議し、書籍「より良いメンテナンスのための設計・施工 10 の原則改訂版」及び書籍「-建築基準法第 8 条第 2 項対応-建築・設備維持保全計画の作り方(新訂版)」の発行及びセミナーの開催等について報告を行った。

## 3) 第 3 回(平成 28 年 12 月 8 日)

平成 29 年度事業計画(素案)及び収支予算(骨格)等について審議し、書籍「オフィスビル性能等評価・表示マニュアル」の発行及び研修の開催等について報告を行った。

## 4) 第 4 回(平成 28 年 2 月 16 日)

平成 29 年度事業計画(案)及び収支予算(案)、代表理事及び業務執行理事の職務執行状況の報告等について審議し、BELCA 賞の選考結果等について報告を行った。

### (2) 事業推進委員会

委員会(委員長:奥村 博史 大成建設(株))を 3 回開催し、調査研究・技術開発等の中期計画の改定を行った。

### (3) アドバイザリー委員会

委員会(委員長:栗林 功 大成建設(株))を 1 回開催し、平成 29 年度事業計画及び収支予算について助言を行った。

## II. 平成 28 年度の事業概要

### 1. ロングライフ化に資する人材の育成

#### (1)「建築・設備総合管理士(ビルライフサイクルマネジャー)」等の資格付与・登録

「建築・設備総合管理士」について、認定委員会(委員長:山本 康友 首都大学東京客員教授)及び講習委員会(委員長:南 一誠 芝浦工業大学教授)の下に、「建築・設備総合管理士」資格取得講習を東京、大阪の 2 会場で開催し、受講者 121 名のうち 107 名を修了者として認定した。そのうち「建築・設備総合管理士」への登録申請のあった 89 名及び「建築・設備総合管理士補」への登録申請のあった 5 名の計 94 名をそれぞれ登録した。また、「建築・設備総合管理技術者」から「建築・設備総合管理士」への移行申請のあった 599 名を「建築・設備総合管理士」として登録した。

区 分	受講者数	修了者数	登録者数
資格取得講習	121 名	107 名	94 名
移行申請	—	—	599 名

なお、「建築・設備総合管理技術者」のうち、登録の有効期間(5 年間)が経過する者の申請等により 28 名を登録した。

この結果、平成 28 年度末の「建築・設備総合管理士」、「建築・設備総合管理士補」及び「建築・設備総合管理技術者」資格登録者総数は 1,009 名となった。

#### (2)「建築仕上診断技術者」の資格付与・登録

「建築仕上診断技術者(ビルディングドクター<非構造>)」について、認定委員会(委員長:坂本 功 東京大学名誉教授)及び講習委員会(委員長:近藤 照夫 ものつくり大学名誉教授)の下に、「建築仕上診断技術者」資格取得講習を東京、大阪、福岡の 3 会場で開催し、受講者 280 名のうち 228 名を修了者として認定した。そのうち登録申請のあった 208 名及び平成 27 年度の資格取得講習修了者で登録申請のあった 20 名の計 228 名を登録した。また、登録の有効期間(5 年間)が経過する者に対する更新講習等により 872 名を登録した。

この結果、平成 28 年度末の「建築仕上診断技術者」資格登録者総数は 5,258 名となった。

区 分	受講者数	修了者数	登録者数
資格取得講習	280 名	228 名	228 名
更新講習等	877 名	872 名	872 名

### (3)「建築設備診断技術者」の資格付与・登録

一般財団法人日本建築設備・昇降機センターと共同で資格付与している「建築設備診断技術者（ビルディングドクター〈建築設備〉）」について、認定委員会（委員長：鎌田 元康 東京大学名誉教授）及び講習委員会（委員長：川瀬 貴晴 千葉大学グランドフェロー）の下に、「建築設備診断技術者」資格取得講習を東京、大阪の2会場で開催し、受講者143名のうち125名を修了者として認定した。そのうち登録申請のあった124名を登録した。また、登録の有効期間（5年間）が経過する者に対する更新講習等により412名を登録した。

この結果、平成28年度末の「建築設備診断技術者」資格登録者総数は3,079名となった。

区 分	受講者数	修了者数	登録者数
資格取得講習	143 名	125 名	124 名
更新講習等	413 名	412 名	412 名

### (4)資格者に対するフォローアップ

#### 1)BELCA Letter

資格者に対して資格登録後の技術の維持・向上に資するため、情報誌「BELCA Letter」のVol.34を平成28年8月に、VOL.35を平成29年2月に発行した。

#### 2)診断業務指針の臨時講習

建築仕上診断業務指針及び建築設備診断業務指針の習得を希望される更新登録年度でない既登録者に対して、更新講習に合わせて、建築仕上診断業務指針に関する臨時講習を東京・大阪・福岡の3会場（受講者19名）で実施するとともに、建築設備診断業務指針に関する臨時講習を東京・大阪の2会場（受講者7名）で実施した。

### (5)認定ファシリティマネジャー資格試験対策講座の開催

認定ファシリティマネジャー（FM）資格試験の受験者のために、一般社団法人ニューオフィス推進協会（NOPA）と共催で、FM資格試験対策講座を東京、大阪にて4つのコースを開催し、222名が受講した。

また、これと関連してFM資格制度協議会（公益社団法人日本ファシリティマネジメント協会（JFMA）、NOPA、当協会の3団体で構成）で実施しているFM資格試験等に関する情報交換を行った。

### (6)次代を担う人材の育成

建築・設備・不動産に係る企業の次代を担う若手社員等を対象として、建物のロングライフのために設計段階、運用段階で留意すべき事項などについて基本的な知識を解説する、『若手社員等向け「建物のライフサイクルと維持保全セミナー」』を開催した。

講演内容 講師	建築設計の実務者の視点から～攻めのライフサイクル設計及びマネジメントの重要性～ 眞中 正司（(株)日建設計）
	建物管理の視点から 窪田 豊信（日本管財(株)）
開催地	東京
開催日	平成29年3月28日
参加者	38名

また、協会設立30周年に向け、維持保全研究支援奨励金助成事業の実施のあり方等について検討した。

## 2. ロングライフ化の推進に必要な調査研究・技術開発及び情報発信

### (1) 調査研究・技術開発

#### 1) 「オフィスビル性能等評価・表示マニュアル」の作成

公益社団法人日本不動産鑑定士協会連合会と共同で、オフィスビルを対象に、バリューアップ改修等の企画検討や不動産鑑定評価における建物評価の精緻化に向け、オフィスビルの性能を定量化して評価する手法を取りまとめ、書籍「オフィスビル性能等評価・表示マニュアル」を刊行した。

#### 2) 「建築・設備維持保全計画の作り方・活用の仕方」の改訂

建物の維持保全計画の策定にあたってのガイドブックである平成 22 年刊行の書籍「建築・設備維持保全計画の作り方・活用の仕方」について、委員会（委員長：山本 康友 首都大学東京客員教授）を 3 回、WG（主査：山本 康友 首都大学東京客員教授）を 7 回開催し、建物のロングライフ化を見通したライフサイクルマネジメントの観点を取り入れる等して改訂した。

#### 3) 「より良いメンテナンスのための設計・施工 10 の原則」の改訂

メンテナンスに関する不具合事例を収集し、不具合が生じないようメンテナンス側から設計・施工側に提言を行った平成 19 年刊行の書籍「より良いメンテナンスのための設計・施工 10 の原則」について、委員会（主査：加藤 秀雄 日建設計コンストラクション・マネジメント(株)）を 2 回開催し、刊行以降の法令改正等に対応するとともに、省エネルギーや震災対応の事例の追記等を行って改訂した。

#### 4) 「建築・設備維持管理のしおり」の改訂

ビル所有者等に向けて建築・設備の維持保全の概要を分かり易く解説した平成 2 年刊行の小冊子「建築・設備維持管理のしおり」について、平成 24 年の最終改訂以降の法令改正や技術革新等に対応した改訂に向けて検討を行った。

#### 5) 「建物診断のおすすめ」の改訂

建物の維持保全における建物診断の重要性について解説した平成 14 年刊行の小冊子「建物診断のおすすめ」について、刊行以降の BELCA の資格制度の見直しや法令改正等に対応した改訂に向けて検討を行った。

#### 6) 「新・LC 設計の考え方」の改訂

LC 設計の考え方を取りまとめた平成 14 年刊行の書籍「新・LC 設計の考え方」について、委員会（主査：山中 哲 (株)日建設計）を 2 回、幹事会（主査：山中 哲 (株)日建設計）を 2 回、建築分科会（副主査：浅野 英治 (株)大林組）を 2 回、設備分科会（副主査：山本 英雄 大成建設(株)）を 2 回、リニューアル・運用分科会（副主査：岸本 知子 (株)竹中工務店）を 1 回開催し、刊行以降の新技术・新工法等に対応した LC 設計のポイントや LC 評価例の見直し等、書籍改訂に向けて検討を行った。

#### 7) 「不動産リスクマネジメントと ER 活用ガイド(仮題)」の検討

エンジニアリング・レポート (ER) 作成者連絡会議内の普及委員会の協力を得て検討を進め、普及委員会（委員長：中村 直器 (株)イー・アール・エス）を 3 回開催し、ER の普及に向け、ユーザーに対して ER の役割、内容、取得方法、活用の仕方等を解説する書籍の作成について検討を行った。

#### 8) 「BELCA 賞の 25 年(仮題)」の検討

BELCA 賞の創設 25 周年を機に、賞の更なる普及を図るため、これまでの全表彰建築物の選考評を集約等した書籍の作成について検討を行った。

## 9)「オフィスビルと共同住宅の法律・技術の変遷年表」の改訂

建物の維持保全、診断、改修等に資するため、竣工当時の主要な建築法規制や設備方式等を年表形式で一覧できる平成 16 年刊行の小冊子「オフィスビルと共同住宅の法律・技術の変遷年表」について、委員会（主査：近藤 照夫 ものづくり大学名誉教授）を 1 回開催し、刊行以降の法令改正や技術革新等に対応して改訂のための検討を行った。

## 10)防火・避難規定等の合理化に関する基本的考え方についての資料収集整理業務について

国土交通省国土技術政策総合研究所から平成 28 年度プロジェクト研究「防火・避難規定等の合理化による既存建物活用に資する技術開発」についての標記業務を受託した(株)アルテップより、一部業務の再委託を受け、防火避難規定の検討ワーキングの運営支援を行った。

## (2)情報発信

### 1)機関誌「BELCA NEWS」による情報発信

編集委員会（委員長：小松 幸夫 早稲田大学教授）を 4 回開催し、次のとおり機関誌 BELCA NEWS を発行するとともに、会員、関係団体、報道機関等に配布した。

号数	主な内容	
155 号	刊行年月	平成 28 年 4 月
	特集	BELCA 賞受賞建築物のその後
	トップ・オピニオン	・宮下 正裕（(株)竹中工務店 取締役社長） ・森 浩生（森ビル(株) 取締役副社長執行役員）
	会員コーナー	(株)山下設計、東急建設(株)、東洋熱工業(株)、日本管財(株) ジェイアール東海コンサルタンツ(株)
156 号	刊行年月	平成 28 年 7 月
	特集	超高層ビルのロングライフ化
	トップ・オピニオン	・植村 仁（東急不動産(株) 代表取締役社長） ・米川 清水（日本メックス(株) 取締役相談役）
	会員コーナー	(株)日本設計、(株)東京建物リサーチ・センター
157 号	刊行年月	平成 28 年 10 月
	特集	BCP に対応できるビルのあり方
	トップ・オピニオン	・白石 達（(株)大林組 代表取締役社長） ・中村 洋行（(株)コンステック 代表取締役社長）
	会員コーナー	TOTO(株)、(株)裕生
158 号	刊行年月	平成 29 年 1 月
	特集	快適性・省エネ性向上のためのパッシブな取り組み最近事情
	トップ・オピニオン	・曾禰 寛純（アズビル(株) 代表取締役社長） ・小泉 博義（鹿島建設(株) 代表取締役副社長建築管理本部長）
	会員コーナー	新日本空調(株)、SOMPO リスケアマネジメント(株)

### 2)調査研究・技術開発の成果図書による情報発信

調査研究・技術開発の成果として、次の図書を刊行した。

刊行物の名称	刊行年月
より良いメンテナンスのための設計・施工 10 の原則 改訂版 ー不具合削減のためのメンテナンスからの提言ー	平成 28 年 9 月
ー建築基準法第 8 条第 2 項対応ー 建築・設備維持保全計画の作り方（新訂版）	平成 28 年 11 月
ービルの所有者・設計者、不動産鑑定士のためのー オフィスビル性能等評価・表示マニュアル	平成 29 年 3 月

### 3) セミナー等による情報発信

建物のロングライフ化に関する情報提供のため、次のセミナーや講習会を開催した。

#### ①～ロングライフを目指すための～セミナー「ビルのライフサイクルマネジメント」

書籍「-ロングライフを目指す-ビルのライフサイクルマネジメント」を用いて、ビルのライフサイクルマネジメントの必要性等について事例を交えながら解説するセミナーを開催した。

講演内容 講師	ビルのロングライフ化に向けたライフサイクルマネジメント 小松 幸夫（早稲田大学教授）
	ビル経営におけるビルのライフサイクルマネジメントの実践 鈴木 康史（東京建物(株)）
	ライフサイクルマネジメントのソリューション～着眼点と検討事例～ 真中 正司（(株)日建設計）
	実例から学ぶロングライフビルにおけるリニューアルの重要性 嶋村 浩樹（(株)山下設計）
開催地	大阪
開催日	平成 28 年 7 月 29 日
参加者	100 名

#### ②セミナー「より良いメンテナンスのための設計・施工 10 の原則」

書籍「より良いメンテナンスのための設計・施工 10 の原則 改訂版 -不具合削減のためのメンテナンスからの提言-」を用いて、メンテナンス段階における不具合事例を紹介するとともに、設計・施工段階におけるその対応策について解説するセミナーを開催した。

講演内容 講師	メンテナンス側から設計・施工への提言の意義 加藤 秀雄（日建設計コンストラクション・マネジメント(株)）	
	メンテナンスから見た不具合事例と改善案 山本 義夫（(株)東急コミュニティー）	
	設計・施工段階におけるメンテナンス関連事項の検討 田邊 利博（日本管財(株)）	
開催地	東京	大阪
開催日	平成 28 年 9 月 2 日	平成 29 年 2 月 10 日
参加者	99 名	56 名

#### ③セミナー「建築基準法第 8 条第 2 項対応 建築・設備維持保全計画の作り方」

書籍「-建築基準法第 8 条第 2 項対応-建築・設備維持保全計画の作り方」を用いて、建物のライフサイクルを見通した維持保全計画の重要性やその作成事例を解説するセミナーを開催した。

講演内容 講師	建築物のロングライフ化と維持保全計画 山本 康友（首都大学東京客員教授）
	ビルのライフサイクルマネジメントと維持保全 中村 昌行（東京ガス都市開発（株））
	維持保全計画の作成事例の解説 中島 修一（SD ファシリティーズ(株)）
開催地	東京
開催日	平成 28 年 11 月 1 日
参加者	76 名

④建築物のライフサイクルマネジメント用データ集を用いた長期修繕計画策定演習セミナー

書籍「建築物のライフサイクルマネジメント用データ集」を用いて、長期修繕計画の策定手順や同書のデータの活用方法を解説するとともに、モデル建物の工事見積書から長期修繕計画の策定演習を行うセミナーを開催した。

講演内容 講師	建築物のライフサイクルマネジメント用データ集と長期修繕計画 山本 英雄（大成建設(株)）		
	長期修繕計画の策定手順 行武 俊行（戸田建設(株)）		
	長期修繕計画策定演習 山本 英雄（大成建設(株)）、行武 俊行（戸田建設(株)）		
開催地	東京【第1回】	東京【第2回】	東京【第3回】
開催日	平成28年12月6日	平成28年12月7日	平成29年2月23日
参加者	32名	32名	32名

⑤セミナー「BELCA 賞受賞建築物におけるロングライフビルへの取組み」

BELCA 賞受賞建築物の関係者が、受賞建築物におけるビルのロングライフ化のための取組みを解説するセミナーを開催した。

講演内容 講師	千葉大学 ののほな記念講堂-第25回 BELCA 賞ロングライフ部門- 鹿島 大陸（㈱楨総合計画事務所）		
	三井住友銀行 大阪本店ビル-第25回 BELCA 賞ロングライフ部門- 二本柳 法生（㈱日建設計）		
	J Pタワー-第24回 BELCA 賞ベストリフォーム部門- 野村 和宣（㈱三菱地所設計）		
開催地	東京		
開催日	平成29年2月15日		
参加者	18名		

⑥セミナー「建築物の所有・メンテナンスにおける瑕疵をめぐる法的問題について」

建築物の所有・メンテナンスにおける瑕疵問題を解説するセミナーを開催した。

講演内容 講師	建築物の所有・メンテナンスにおける瑕疵をめぐる法的問題について 大森 文彦（弁護士・東洋大学教授）		
開催地	東京		
開催日	平成29年2月24日		
参加者	64名		

⑦ビルの所有者・設計者・不動産鑑定士のための「オフィスビル性能等評価・表示マニュアル」集合研修

オフィスビルを対象に、バリューアップ改修等の企画検討や不動産鑑定評価における建物評価の精緻化に向け、オフィスビルの性能を定量化して評価する手法を取り纏めた「オフィスビル性能等評価・表示マニュアル」の研修を開催した。

共催	公益社団法人 日本不動産鑑定士協会連合会		
講演内容 講師	オフィスビル性能等評価・表示マニュアルについて 村木 信爾（大和不動産鑑定(株)）		
	技術的事項の説明：性能等評価指標・評価基準及び評価方法の解説 野元 寿男（野元事務所）、高橋 淳一（高橋建物環境技術士事務所） 吉野川健一（大和不動産鑑定(株)）		

	性能等評価結果の不動産鑑定評価への活用方法の説明 森山 賢二（一般財団法人日本不動産研究所）	
開催地	東京	大阪
開催日	平成 29 年 3 月 3 日	平成 29 年 3 月 10 日
参加者	190 名	98 名

⑧「維持保全計画作成講習会」～演習を通じて維持保全計画の作成の仕方を学ぶ～

維持保全計画を作成する際の要点や活用事例を解説し、計画の中で特に重要な実施体制や点検計画の作成等の演習を行う講習会を開催した。

講演内容 講師	ライフサイクルマネジメントと維持保全 窪田 豊信（日本管財(株)）	
	維持保全計画の構成と作成方法 中村 昌行（東京ガス都市開発(株)）	
	維持保全計画の事例 中村 昌行（東京ガス都市開発(株)）	
	作成演習 中島 修一（SD ファシリティーズ(株)）	
開催地	大阪	東京
開催日	平成 29 年 3 月 16 日	平成 29 年 3 月 22 日
参加者	18 名	28 名

⑨セミナー「ビルのライフサイクルマネジメント②」～ビルのバリューアップのための修繕・更新・改修～

ロングライフを目指すビルのライフサイクルマネジメントの実現に向けて、ビルの修繕・更新・改修の意義等について、事例を交えながら解説するセミナーを開催した。

講演内容 講師	PRE・CRE における修繕・更新・改修の重要性 山本 康友（首都大学東京客員教授）	
	ビル経営から見た企業価値向上の考え方 松岡 利昌（(株)松岡総合研究所、日本オフィス学会会長）	
	ビルの修繕・更新・改修について 東宮 英明（大成建設(株)）	
	ビルのライフサイクルと改修 ～事例を中心に～ 河向 昭（(株)三菱地所設計）	
開催地	東京	
開催日	平成 29 年 3 月 24 日	
参加者	103 名	

4) ホームページによる情報提供

協会の概要、会員の紹介を行うとともに、BELCA 資格、BELCA 賞、エンジニアリング・レポート作成者連絡会議の活動等の情報をホームページに掲載し、BELCA 活動の周知を図った。

5) その他

次の展示会において、パネル展示やパンフレットの配布等による BELCA 活動の周知を行った。

名称	主催	開催期間
R&R 建築再生展 2016	R&R 建築再生展 2016 組織委員会	平成 28 年 6 月 1 日～6 月 3 日



名称	主催	開催期間
第 18 回不動産ソリューションフェア	(株)ビル経営研究所	平成 28 年 10 月 18 日～10 月 19 日

### 3. ロングライフ化を助長するための表彰・評価

#### (1)BELCA 賞の表彰

選考委員会（委員長：内田 祥哉 東京大学名誉教授）において、第 26 回 BELCA 賞として、長年にわたり適切に維持保全している模範的な建築物（ロングライフ部門）を 4 件、優れた改修を実施した模範的な建築物（ベストリフォーム部門）を 6 件選定し、BELCA NEWS やホームページへの掲載、メディアへの公表を行い、周知した。

なお、第 25 回 BELCA 賞の受賞建築物の表彰式は、平成 28 年 5 月 16 日に開催した。

#### 1)ロングライフ部門

受賞建築物名	所在地
石橋迎賓館	福岡県久留米市
カトリック布池教会	愛知県名古屋市
調布市総合体育館	東京都調布市
ヨックモック青山本店	東京都港区

#### 2)ベストリフォーム部門

受賞建築物名	所在地
デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO)	兵庫県神戸市
東京大学大講堂 (安田講堂)	東京都文京区
長浜市庁舎	滋賀県長浜市
日本生命保険相互会社本店 (南館ビル)	大阪府大阪市
日本橋ダイヤビルディング	東京都中央区
米子市公会堂	鳥取県米子市

#### (2)ロングライフ化に資する技術等の評価

##### 1)優良補修・改修工法等評価事業の実施

委員会（委員長：坂本 功 東京大学名誉教授）において、「TOTO 和洋リモデル工法 (TOTO(株))」の評価の更新を行った。また、既に優良な工法であると評価されている 3 件について、機関誌 BELCA NEWS、ホームページ、会員の新技术・新事業等説明会等で周知を行った。

##### 2)公営住宅最適改善手法評価事業の実施

委員会（委員長：吉田 倬郎 工学院大学名誉教授）で 2 団地 4 棟について、耐震性、構造安全性、避難安全性、居住性、事業性等から全面的改善事業としての適否について評価を行った。

##### 3)耐震診断・耐震改修計画評定事業の実施

耐震診断については名古屋委員会（委員長：小濱 芳朗 名古屋市立大学名誉教授）で 100 棟、東京委員会（委員長：北山 和宏 首都大学東京教授）で 3 棟の計 103 棟の評定を行った。また、耐震改修計画については名古屋委員会（委員長：小濱 芳朗 名古屋市立大学名誉教授）で 5 棟の評定を行った。

#### 4. ロングライフ化を推進するための正会員との協働の強化

##### (1) 会員向けの情報発信・会員情報の発信

「BELCA 会員名簿 2016～2017」を発行した。また、ホームページに「診断実施会員リスト」及び「補修・改修実施会員リスト」を掲載して、診断や改修業務を行う会員情報を発信するとともに、正会員専用ページにおいてエンジニアリング・レポート作成者連絡会議の活動の情報提供、BELCA NEWS のバックナンバーの掲載を行った。

また、ホームページ内で会員のビルのロングライフ化に関する取り組み等を情報発信する会員ページを更新した。

##### (2) エンジニアリング・レポート(ER)の品質の確保と普及

ER 作成技術及び ER の品質の向上等のため、ER 作成者連絡会議において全体会議、幹事会、分科会等で情報収集、研修に努めるとともに、今後の ER の活用・普及のための活動方策について検討した。

###### 1) 全体会議

全体会議を 1 回開催し、平成 27 年度活動報告の承認及び幹事の選任を行った。また、「建物の長寿命化と建築技術者」(講師：小松 幸夫 早稲田大学教授)と題する講演会を開催した。

###### 2) 幹事会

幹事会を 3 回開催し、ER 作成者連絡会議の活動計画及び活動報告の作成、全体会議の企画等に関する調整を行った。

###### 3) 普及委員会

普及委員会を 3 回開催し、ユーザーに対して ER の役割、内容、取得方法、活用の仕方等を解説する書籍「不動産リスクマネジメントと ER 活用ガイド(仮題)」の検討を行った。また、ER の普及に向けて一般社団法人環境不動産普及促進機構の広報誌「RE-SEED」に「不動産投資・取引におけるエンジニアリング・レポートの活用」と題する連載記事を 1 回寄稿した。

###### 4) 技術委員会

分科会を 4 回開催し、情報収集・意見交換を行った。

##### (3) マンション定期診断の周知

マンションの定期的な診断の普及を図るため、BELCA が定める登録基準を満たす正会員 2 社を「マンションドック」として登録し、BELCA ホームページや展示会等で周知した。

##### (4) ロングライフ化に資する損害保険の普及

正会員が外壁診断を行った建物における外壁落下事故等に関して、当該の正会員及び建物所有者を被保険者として保険金が支払われる外壁診断管理保険の普及を図った。また、ビルを所有する正会員または賛助会員を対象とし、事故による損害賠償に備える「ビルオーナー賠償責任団体保険」を募集した。

##### (5) 会員の新技术・新事業等説明会による情報発信

正会員のロングライフ化に資する新技术・新事業等について、説明会を 2 回開催して会員情報の発信の強化を図った。また、説明会の開催結果については、ホームページ及び機関誌 BELCA NEWS により周知した。

### 1)「オフィスビル等の省エネに関する新技術説明会」

講演内容 講師	一体型照明・空調・防災設備「CEILING FREE（シーリングフリー）」 山田 正也（ダイダン(株)）、北野 雅士（ダイダン(株)）
	中規模オフィス向け天井輻射空調システム「S-ラジシステム・ライト」 熊野 直人（清水建設(株)）
	室内環境連携型動的空調シミュレーション「ACE - Vids（エース・ヴィッツ）」 中村 元（新日本空調(株)）
開催地	東京
開催日	平成 28 年 9 月 23 日
参加者	39 名

### 2)「コンクリートの長寿命化等に資する新技術等の説明会」

講演内容 講師	コンクリートのひび割れ調査、補修・補強 今本 啓一（東京理科大学教授）
	「アクアカーテン」を適用したコンクリートの再アルカリ化工法 齋藤 淳（(株) 安藤・間）
	超高強度繊維補強コンクリート「スリムクリート工法」 平田 隆祥（(株) 大林組）
開催地	東京
開催日	平成 29 年 2 月 9 日
参加者	26 名

## 5. その他の活動

### (1)関係団体との情報交換

「既存建築物耐震診断・改修等推進全国ネットワーク委員会」、「一般社団法人環境不動産普及促進機構」、「BIM ライブラリーコンソーシアム」、「建築研究開発コンソーシアム」、「一般社団法人住宅リフォーム推進協議会」、「一般社団法人建築・住宅国際機構」、「ASTM(American Society for Testing and Materials: 米国材料試験協会)」に参加する等、関係団体との情報交換を行った。

### (2)後援・協賛

他団体等の事業 17 件について、後援・協賛を行った。